



# 千の手

犬山

つが おかのん  
継鹿尾観音

寂光院

5日 大随求菩薩（求めに随い願いが叶う）ご縁日  
18日 千手観音（千の御手で救われる）ご縁日



国登録文化財  
「仏さまに出会う」  
随求堂ずいぐどう

<本尊大随求菩薩（中央）特別開扉>  
毎月5日・18日 ななつきまいり縁日  
10時半 大護摩祈禱&やすらぎ法話  
(犬山遊園駅東口よりバス)



随求堂<左>



随求堂<右>

西国三十三観音（33の観音像）・天井には108枚の天井画

春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえてすずしかりけり

これは道元禅師のお歌です。日本の四季の美しさを三十一文字に詠み込んでおられます。一九六八年ノーベル文学賞を受賞された川端康成氏がストックホルムの記念講演でこの道元禅師の歌を引き、「美しい日本の私」と題して講演をされました。なるほど寂光院も全山が国定公園という風光に恵まれたところですので、四季の自然の姿は趣深く美しいです。また日本は二十四の季節をもつ国（二十四節季）と言われます。日本人はほのかな風の香り、水のぬくもりに季節を感じ取る敏感なまでにする



## 日本人の生きる力

犬山・寂光院山主

まつ だい ち  
松平 實胤

どの感受性に優れているのでしょうか。

「敬いと感謝と恐れ」

また自然の恵みはとても豊かで、海の幸、山の幸、おいしいものに囲まれて生きてきました。ですから、日本人は古来より自然を敬い、自然に感謝し、自然を慈しみ、自然と共に生きてきたという長い歴史があります。

一方、日本は地震、津波、台風、豪雨、火山爆発、とにかく人智の到底及ばない、人が抗うことのできない天地自然の計り知れない力に畏怖の念を抱き続けてまいりました。ですから、

自然に対して日本人特有の生き方のコツ、智恵というものが知らず知らずのうちに日本人に刷り込まれ、それが「生きる力」の源として伝承されてきたのでしょうか。

「諦観—あきらめて、あきらめない」

それは間違いなく仏教の「無常観」、「諦観（ていかん）」にもとづくものであると思います。諸行無常は「およそこの世に存在するもので同じ状態にとどまるものは一つもない」ということとあり、諦観は「現実をありのままに観る、納得する、悟る」ということです。例えば、津波で家族を失い、家を失い、町が

流された現実をありのままに諦め（あきらかに見、納得する）れば、そこから先は（相手が敬いと感謝と畏怖の対象の自然なら）その状況を呪うことなくそれを乗り越えて前に進む以外に道はありません。日本人は有史以来、天災地変に見舞われる度に、また戦火にさいなまれる度毎に、立ち直り、復興する、その繰り返しで日本の歴史であったといってもよいでしょう。

「日本人の生きる力」は日本の自然とともに育まれてきたのだと思います。それは現実を「あきらめ（明らかに観）」れば、しばらく力を落としてやる気を失っても、早晚それを乗り越える、やり抜く、「あきらめない」ということでしょうか。

QRコード



### 三十年間「寂光院の寺門興隆」に尽力

谷口清太郎氏は昭和五十六年二月、当時の当山責任役員・信徒総代・平工満（ひらくみつる・当時名鉄犬山ホテル会長）氏の後任として就任されました。以来、本年平成二十三年二月退任されるまで三十年にわたり、寂光院の寺門興隆にお力添え戴きました。

私は当時三十四歳という未熟者でございましたので、公私ともに実に大きなお支えとなつて戴きました。

ことのほか、平成十九年より始まりました国登録文化財、本堂並びに随求堂「平成の大修理」には奉賛会の会長として、見事落慶式に導いて下さいました。まさに寂光院にとって氏の大恩は量り知れません。

### 「もみじでら寂光院」と谷口氏

寂光院は今では三河の香嵐溪と並び称されるほどの紅葉の名所になりましたが、寂光院の紅葉は別に昨日今日突然美しくなつたわけではありません。寂光院のイロハモミジは大木が多く樹齢も半端ではありません。当然戦前から紅葉の名所であつたわけのです。

氏がある秋、寂光院に紅葉狩りに来山された時、「私は戦後、名鉄に入社してまもなく、広報宣伝を担当したことがあります。『紅葉の寂光院』は当時から有名でしたよ」とおっしゃつたことがございます。よくよく土地の古老に聞いてみましても、寂光院は昭和三十年ころまでは大層な賑わいであつたというのです。しかし、伊勢湾台風で山の形を変えるほど荒れ果てて以来、世の中から忘れ去られてしまつたというのです。

氏は「山内も整備されて来たのだし、知る人ぞ知る紅葉の名所で終わるのは惜しい、名鉄もお手伝いする」とおっしゃつたことがございます。それをきっかけに私も講演先とか、とにかく事あるごとに「寂光院の紅葉」を吹聴するようになりました。紅葉狩りに訪れる人も徐々に多くなり、観

## 哀悼

寂光院

前責任役員

前信徒総代

平成の大修理奉賛会前会長

# 谷口清太郎 殿

光関係の諸機関も動きだし、数年前から秋の行楽のポスターにも採用されるようになりました。私自身もテレビのCMにも出させて戴くようになりましたが、それを誰よりも喜んで下さつたのは氏でありました。

### 谷口氏と私

氏は財界のトップになられるほどのお方ですから、若僧の私ごときが気安くお近付きできるお方ではありません。ただ一つだけ共通点がありました。成年生まれということ。二廻り違うのですが、なぜかそれが氏から親近感を戴けた点ではないかと思つています。とにかく三十年変わるのとなく、どのような場でもいつも対等に扱つて下さいました。それは「尾張の最古刹・寂光院」という尊格に対する敬いのお念をお持ちであつたということに尽きると思います。またその人となりですが、実に誠実でいらつしやいました。本当に偉い方は「おごる、高ぶる、威張る、見下す」といふことがないといふことを氏からいつも学ばせて頂いておりました。とにかくすべてに絵になるようなスマートなリーダーで、三十年間私の理想のあるべき姿でいらつしやいました。



大まされま  
平成の大修理  
の落成祝賀  
席上にて  
会長挨拶  
をされた  
こと  
を  
報告  
する  
こと  
が  
ござ  
います  
。

思い出を語るのに紙数は尽きませんが、三十年の長きにわたり格別の高配にあずかりました。感謝してもし尽くすことはできません。今私にできることはただただ、謹んでご冥福をお祈り申し上げますことのみでございます。

南無千手観世音菩薩

合掌

寂光院山主

松平實胤

### 谷口清太郎氏

名古屋鉄道株式会社元会長

名古屋商工会議所元会頭

勲一等瑞宝章

平成二十三年十月十七日逝去 八十八歳

慶  
祝

松平實胤山主

教  
学  
功  
劳  
章

松平實胤山主は昭和四十八年五月、寂光院の住職就任以来、真言宗智山派総本山智積院より、平成十一年には「護持功勞章」を、平成十五年には「布教功勞章」を拝受しておりますが、更にこの度「教学功勞章」受章の榮譽に浴しました。

去る九月二十七日十時より、総本山智積院金堂におきまして親授式が行われ、七月に新しく菅長様に就任された寺田信秀大僧正猥下より授与されました。

私は、昭和五十二年四月一日、真言宗智山派の宗立教育機関「智山専修学院」の講師を拝命いたしました。高井隆秀先生（後の智積院第六十六世）のお声がかりで藤井龍心先生（後の智積院第六十五世）のあとを引き継ぐことになりました。当時の先生方はお二人のほかには梵字悉曇の坂井榮信先生、各宗大意の三神榮昇先生、声明の青柳照運先生：とにかくそうそうたる顔ぶれで、三十になつたばかりの青二才が気楽に声をかけられるような先生方ではありませんでした。以来三十五年、延べ千人を超える有為な人材を世に送ることになるので、現在まさに智山を背負って立つ教師がキラ星の如く輩出しまして、その活躍する姿を見えますと心躍ります。

私自身学院生に育てられて今日の自分があると感謝しています。

（松平實胤 談）



東日本大震災義損金のご報告（平成23年10月20日現在）

寂光院が所属します真言宗智山派の寺院は東北・関東地方に多く、被災寺院も多数あります。そこでまず

●宗教法人寂光院として

	第1回 4月	500,000円
※	第2回 8月	800,000円
	計	1,300,000円

以上の2件は真言宗智山派宗務庁（宗報掲載済み）へ寄託いたしました  
※平成23年度「九万九千日記念慈悲行分」（協賛企業一覧は5ページ参照）

●宗教法人寂光院として

	第1回 7月	100,000円
	第2回 8月	100,000円
	第3回 9月	100,000円
	計	300,000円

以上の3件は直接被災寺院にお届けしました。

●一般檀信徒募金箱	9回に分けて	217,777円
●やすらぎ説法 聴聞者（ご信徒）・協力金	6回にわけて	244,200円
講演者（松平實胤）・協力金	6回にわけて	244,200円
	計	706,177円

以上2件は延べ15回にわたり中日新聞社会事業団（中日新聞掲載済み）へ寄託いたしました

お寄せいただきました皆様のお心に深く感謝申し上げます。